

福島第一原子力発電所の状況

2016年4月25日
東京電力ホールディングス株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (4/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.5 m ³ /h	17.1 °C	0.43 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.8 m ³ /h	22.6 °C	3.86 kPa g	A系： 0.05 vol%
		炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	19.7 °C	0.27 kPa g	A系： 0.08 vol%
		炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (4/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.2 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	16.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	16.4 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	15.2 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/25 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	運転中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<4. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要となる工事が完了。
2016/3/31 11:20 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は、建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画であり、第一段階では、1～4号機の海側全面と山側の一部を凍結することで進めて行く。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- 2016/04/25 11:00 頃、5号機原子炉建屋残留熱除去系(A/C)ポンプ室において、残留熱除去系(A)ポンプ電動機の絶縁診断作業を行っていたところ、ケーブル端子部に設置した養生シート(静電マット)から発煙していることを確認。すぐに協力企業作業員が足で踏み付け、煙が消えたことを確認。11:15 に双葉消防本部へ連絡。その後、当社社員が現場状況を確認したところ、当該静電マットからの発煙はなく、周辺への延焼はないことを確認。また負傷者の発生はないことを確認。発生原因は、残留熱除去系(A)ポンプ電動機の絶縁診断作業のため、電圧を印加したところ、養生用の静電マットを通じて地絡が発生し、その影響により静電マットが焼損したものと推定。なお、15:15 双葉消防本部(浪江消防署)より「火災に該当しない」と判断。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

【サブドレン他水処理施設の状況】

- 2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え。
- サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクAの分析結果[採取日4/15]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、4/22 10:12～16:37 海洋への排水を実施。排水量は934m³。
- サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクBの分析結果[採取日4/16]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、4/23 9:59～16:25 海洋への排水を実施。排水量は936m³。
- サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクCの分析結果[採取日4/18]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、4/24 9:49～16:19 海洋への排水を実施。排水量は947m³。
- サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクDの分析結果[採取日4/19]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、4/25 10:01～15:56 海洋への排水を実施。排水量は861m³。
- 2016/4/21 10:20 頃 サブドレン他水処理施設において、No.4 中継タンク出口配管のフランジ部より2秒に1滴程度の滴下があることを協力企業作業員が発見。
このため、10:34 に揚水ポンプによる汲み上げおよびNo.4 中継タンクから集水タンクへの移送を停止。その後10:40 に滴下が停止していることを確認。
なお、No.4 中継タンク周辺には漏えい拡大防止の堰が設置されており、滴下した水も堰内にとどまっている。現在、現場確認を行っている。
現場確認の結果、滴下した水の範囲は約1m×約0.5mであり、滴下した量は約0.5L推定。また、当該フランジ部からの滴下を発見後、直ちに滴下した水の拭き取りを開始し、同日11:00までに拭き取りを完了。
なお、当該フランジ部については、4/20にNo.4 中継タンク出口配管の清掃を行った際にパッキンを交換するとともに、当該フランジ部の漏えい確認を行い、異常がないことを確認していた。
当該フランジ部については、滴下を確認した後にフランジの増し締めを行うとともに、ビニールシートによる養生および受け皿を設置して、14:50 に漏えい確認を行ったところ、20秒に1滴程度の滴下があることを確認。滴下した水については、養生内に収まっている。
今後、準備が整い次第、当該フランジ部の分解点検を行う。
4/23、当該出口配管フランジ部のパッキン交換を実施。11:43 漏えい確認を行い、異常がなかったことから、サブドレン他水処理施設No.4 中継タンクの運用を開始。なお、当該出口配管フランジ部から滴下した要因は、出口配管清掃後のフランジ締め付けの際にパッキンがずれたことにより、隙間が生じ、滴下したものと推定。

【地下水バイパスの状況】

- 地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社及び第三者機関による分析結果[採取日4/13]については、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、4/26 海洋への排水を実施予定。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

＜地下水観測孔・海水サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND (ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

＜最新のサンプリング実績＞

- ・全ベータ等放射能分析結果

地下貯水槽 No.1～3 観測孔 [採取日 4/22, 24]

地下貯水槽 No.1(漏えい検知孔水)南西側 [採取日 4/22, 24]

地下貯水槽 No.1(漏えい検知孔水)北東側 [採取日 4/22, 24]

地下水バイパス(調査孔)、海側観測孔 [採取日 4/21]

いずれも前回値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽観測孔について監視を強化するとともに、全ベータ放射能が上昇した原因を調査していく。

以 上